

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和2年度）

都道府県名 佐賀県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績（円）	うち交付金相当額（円）	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 1名	1	100%	A	44,000	44,000	令和2年度 目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証等の取得経営体数 1経営体	0	0%	D	0	0	令和2年度、3年度、4年度、5年度及び6年度目標未達成
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年5月7日、GAP担当者会議、R6年度推進計画、活動計画について協議（農業試験研究センター） ・令和7年1月28日、佐賀県GAP推進大会を開催（生産者、JA、市町、GAP指導員等参加：アバンセホール） ・県単独事業で作成した畜産GAPに関する普及啓発資料を活用し、県内関係機関に配布することで畜産農家への意識啓発を図るとともに、研修会等への参加によるGAPへの認識と理解及び認証取得の取組を促した。 ・部会や農場立入等の機会を活用し啓発活動を行った。 ・上記の取組により4農家が興味を示し認証取得を促したが、認証取得に係る手間や費用の負担に見合った便益が見込めない等の理由により、認証取得に至らなかった。 							
<p>都道府県による評価</p> <p>「II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大」の成果目標は達成できていない。GAP担当者会議や推進大会、各種研修会等を開催することで生産組織や農業者等への普及啓発に取り組むとともに、個別の経営体に対して各地域のJA等関係機関と連携を密にして意向調査や研修会による啓発活動を実施したことにより興味を示した農家がいるが、認証取得に係る手間や費用の負担に見合った便益が見込めない、農場HACCP認証を選択する等によりGAP認証の取得にまで至っていない。このため、GAP認証取得に興味を示している農家に対して他県での取組事例も参考にしつつ、GAP認証取得のメリットを見いだせるよう、農場の状況に応じた説明や重点的な指導を行う必要がある。また、引き続きGAP認証取得に意欲がある畜産農家を掘り起こし、目標達成のため指導活動等を推進していく。</p>							
<p>国による評価</p> <p>畜産GAP等認証の取得拡大については目標達成に至らなかったことから、事業実施主体に対して令和7年度に目標が達成（畜産GAP認証の取得等経営体数：1経営体）されるよう農政局へ改善計画書を提出させる。</p>							

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和2年度）

都道府県名 長崎県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 18経営体	12	67%	C	386,480	386,480	令和2年度に評価終了
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証の取得等経営体数 1経営体	0	0%	D	0	0	令和2年度、3年度、4年度、5年度及び6年度目標未達成
<p>事業の成果</p> <p>令和6年度は、令和6年9月4日および令和6年11月27日、令和7年2月28日に開催した「第3期ながさき養豚振興計画」ワーキング・グループ会議にて、畜産担当者（県職員）を対象に、畜産GAPの取組の推進について促した。また、令和7年2月28日に開催した「養豚収益力向上研修会」にて、養豚の生産者・団体の計24名に対して、農林水産省から令和7年4月に策定予定の「養豚農業の振興に関する基本方針」について説明があり、その中で、持続可能性に配慮した生産方式の導入として、GAPの取組の内容について説明があった。</p> <p>その結果、一部の農家については畜産GAPの取組の意義に関して理解醸成が図られ、管理点の一部を自己点検し、適合基準を満たすことが確認できたが、。記録の整備や薬品の施錠管理、労務管理の整備などで改善が必要であった。このため、引き続き指導を行う必要があることから、令和6年度内の認証取得には至らなかった。</p> <p>なお、中核的な普及指導員が畜産GAP推進研修を受講し、生産現場における課題解決とGAPを推進するスキルを取得してきたことから、指導体制の強化につながっている。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>畜産GAPに関する理解の醸成を図ったことで一部の養豚生産者は畜産GAPに興味を示したものの、飼料価格の高まりや畜産物需給の不安さ等による先行きの不透明感から経営改善を優先しているため、認証取得に積極的な農家は少数であった。また、管理点の自己点検を行った養豚農家においても、医薬品の在庫管理や施錠管理等について、改善を要する点があったことから、新規の認証取得には至らなかった。</p> <p>このため、引き続き各地域の指導体制の強化と指導員個々のスキルを向上させるとともに、県として積極的に周知活動を行っていくことで新規の認証取得を推進していく。</p>							
<p>国による評価</p> <p>成果目標のうち、II畜産GAP等認証の取得拡大については目標達成に至らなかったことから、事業実施主体に対して令和7年度に目標が達成（畜産GAP認証の取得経営体数：1経営体）されるよう農政局へ改善計画書を提出させる。</p>							

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和3年度）

都道府県名 長崎県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 12 経営体	15	125%	A	429,000	429,000	令和3年度目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証の取得等経営体数 1 経営体	0	0%	D	0	0	令和3年度、4年度、5年度及び6年度目標未達成
<p>事業の成果</p> <p>令和6年度は、令和6年12月23日および令和7年2月6日に開催した「長崎対馬地どり振興協議会」の定例会議及び現地指導において、畜産担当者（県職員）が県央・島原・対馬地域の養鶏の経営体に対し、重点的に畜産GAPの認証取得を提案した。特に島原地域および対馬地域においては、指導補2名の立会いの下、畜産GAP取得に向けた自己点検が実施されたが、記録の整備や薬品の施錠管理、労務管理の整備などの改善が必要であり、改善には時間を要することが判明した。このため、引き続き指導を行う必要があることから、令和6年度内の認証取得には至らなかった。</p> <p>なお、中核的な普及指導員が畜産GAP推進研修を受講し、生産現場における課題解決とGAPを推進するスキルを取得してきたことから、指導体制の強化につながっている。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>畜産GAPに関する理解の醸成を図ったことで地鶏生産者は畜産GAPに興味を示したものの、年度途中での経営者の交代や令和7年度以降の事業継続について見直しを図る動きがあったことから、年度内での新規の認証取得には至らなかった。</p> <p>このため、引き続き当該生産者も含めた生産者に対して畜産GAPの取組を推進させるため、各地域の指導体制の強化と指導員個々のスキルを向上させるとともに、県として積極的に周知活動を行っていくことで新規の認証取得を推進していく。</p>							
<p>国による評価</p> <p>成果目標のうち、II 畜産GAP等認証の取得拡大については目標達成に至らなかったことから、事業実施主体に対して令和7年度に目標が達成（畜産GAP認証の取得経営体数：1 経営体）されるよう農政局へ改善計画書を提出させる。</p>							

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和3年度）

都道府県名 熊本県

目的	目標値			事業実績		備考	
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)		うち交付金相当額 (円)
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導 農業者数 11 経営体	12	109%	A	2,202,728	2,202,728	令和3年度 目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証 の取得等経営体数 4 経営体	3	75%	C	170,515	170,515	・令和3年度、4年度、5年度及び6年度目標未達成 ・令和6年度に1農場が自己資金で認証を取得

事業の成果

熊本県では、平成30年3月に畜産GAPの制度普及や県全域の指導体制構築を目的として、県や関係団体等から構成される「熊本県畜産GAP推進協議会」を設立し、県単独事業も活用して県内における畜産GAPの取組を推進してきた。

令和6年度においても、熊本県及び熊本県畜産協会において県内の畜産経営体に対して畜産GAPの普及啓発活動を推進した結果、1経営体（JA北九州ファーム株式会社玉名牧場：R6.11.29取得）が新規認証取得したことで、県内のJGAP認証農場は合計8農場となった。

都道府県による評価

II 畜産GAP等認証の取得拡大については、JA北九州ファーム株式会社玉名牧場が新規に認証を取得したため、実績が3件（目標達成度75%）となった。熊本県畜産GAP推進協議会を中心として指導会議や研修会等を開催し、県内の畜産経営体を対象にGAPの取組に関する普及啓発活動を推進するとともに、各地域の生産者団体等と連携を密にして新規取組農場の掘り起こしを進めたものの、生産コスト上昇等の影響により認証取得に取り組める状況にある経営体は限られているため、目標は未達成となっている。

県として、引き続き関係団体と連携しGAP認証取得の推進のため、GAP指導員資格を取得した職員によるGAP認証取得を希望する農場への助言・指導、公益社団法人熊本県畜産協会への業務委託による生産者・畜産後継者及び指導員等を対象としたGAP研修会を実施する。

国による評価

成果目標のうち、II 畜産GAP等認証の取得拡大については目標達成に至らなかったことから、事業実施主体に対して令和7年度に目標が達成（畜産GAP認証の取得等経営体数：1経営体）されるよう農政局へ改善計画書を提出させる。

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和3年度）

都道府県名 大分県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 日本版畜産GAP指導活動の推進	畜産GAP指導農業者数 16経営体	16	100%	A	99,000	99,000	令和3年度 目標達成済み
II 日本版畜産GAP等認証の取得拡大	畜産GAP認証の取得等経営体数 1経営体	0	0%	D	0	0	令和3年度、4年度、5年度及び6年度目標未達成
<p>事業の成果</p> <p>① 指導者が各農場を回り、パンフレット等を利用して認証取得希望農家の増加に向けた普及活動を実施した。</p> <p>② 指導員、生産者向け研修を実施し、認証取得を推進した。</p> <p>③ 日本版畜産GAP取得実績のある大分県農業大学校が取得ノウハウを生かし、周辺地域への普及・啓発活動を実施した。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>上記成果により、日本版畜産GAP指導活動が推進され、日本版畜産GAP認証の取得を希望する農家1戸と推進会議を実施するなどにより、令和7年5月に新規認証を取得した。</p>							
<p>国による評価</p> <p>成果目標のうち、II日本版畜産GAP等認証の取得拡大については令和6年度中に目標達成に至らなかったことから、事業実施主体に対して令和7年度に目標が達成（畜産GAP認証の取得等経営体数：1農場）されるよう、農政局へ改善計画を提出させる。なお、令和6年度中に畜産GAP認証とならなかった1農場については、令和7年5月に新規認証を取得している。</p>							

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和5年度）

都道府県名 宮崎県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 畜産GAP 指導活動の推 進	畜産GAP指導 農業者数 3経営体	3	100%	A	614,077	614,077	令和5年度 目標達成済み
II 畜産GAP 等認証の取得 拡大	畜産GAP認証等 の取得経営体数 2経営体	2	100%	A	(605,455)	(605,455)	令和6年度 に1農場が自 己資金で認証 を取得し、目 標達成 ()書きは 令和5年度支 出額
<p>事業の成果</p> <p>畜産GAP指導員を養成し、畜産GAP指導体制を強化した。 また、JGAP認証の初審1件、維持・更新2件をはじめ、認証取得意向のある経営体に対し、推進及び指導を行った。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>1農場（JA宮崎経済連養豚実証綾繁殖農場）が自己資金で審査を受審したため、認証取得数について令和6年6月に目標を達成した。</p>							
<p>国による評価</p> <p>成果目標のうち、II日本版畜産GAP等認証の取得拡大について、新たに1農場が認証を取得したことにより成果目標が達成された。</p>							

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和6年度）

都道府県名 宮崎県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 畜産GAP 指導活動の推 進	畜産GAP指導 農業者数 2農場	3	150%	A	877,548	877,548	令和6年度 目標達成
II 畜産GAP 等認証の取得 拡大	畜産GAP認証等 の取得経営体数 1農場	6	600%	A	464,545	464,545	令和6年度に 6農場が自己 資金で任所を 取得し、目標 達成
<p>事業の成果</p> <p>畜産GAP指導員を養成し、畜産GAP指導体制を強化した。 また、JGAP認証の初審1件、維持・更新2件をはじめ、認証取得意向のある経営体に対し、推進及び指導を行った。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>指導員5名、内部監査員8名を新たに育成することで、県内の指導体制が強化された。また、更新審査等を予定していた経営体等に対し指導員が指導を行うことで、認証取得農場数の維持に努めた。 認証の取得拡大については、農業教育機関2件が維持・更新審査を受検するとともに、新規の6農場（コトブキファームグループ有限会社牛徳産業、JA宮崎経済連養豚実証山田第三肥育農場、ナニワランチグループ（高野牧場A牧場・B牧場、紅葉牧場）、有限会社アグテック）が自己資金で認証を取得したことで、目標を達成した。</p>							
<p>国による評価</p> <p>JGAP指導員の育成に関して、指導員5名、内部監査員8名の新規育成を行うなどにより、指導員は67名（令和6年度末時点で前年度末より13名増、うち団体認証指導員は29名）となり、県内の畜産GAP指導体制の強化が図られた。 成果目標のうち、II畜産GAP等認証の取得拡大については、当初計画で認証取得を予定していた経営体は取得に至らなかったものの、別経営体が自己資金で認証を取得したことにより成果目標が達成されたことから、畜産GAPの拡大及び推進に寄与したものと思料される。</p>							

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和6年度）

都道府県名 鹿児島県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当額 (円)	
I 畜産GAP 指導活動の推 進	畜産GAP指導 農業者数 1経営体	1	100%	A	429,606	429,606	令和6年度 目標達成
II 畜産GAP 等認証の取得 拡大	畜産GAP認証等 の取得経営体数 1経営体	1	0%	D	181,000	181,000	令和6年度 目標未達成
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産GAP指導活動の推進について、事業年度中に1経営体への畜産GAP指導を行った。 ・畜産GAP等認証の取得拡大について、事業年度中に新規に承認された経営体はなかったが、農業教育機関の1経営体について認証維持の審査を行った。 							
<p>都道府県による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産GAP指導活動の推進により、事業年度中に1経営体への畜産GAP指導を行うとともに、新たに3名の指導員の育成を行い、地域ごとの指導員配置を基本方針とした指導体制が一層向上した。 ・畜産GAP等認証の取得拡大について、新規認証取得の意向を示していた1経営体は、飼料価格高騰などの要因により経営状況が悪化したため、認証取得を断念した。また、重点地域におけるその他の経営体においても、働きかけを行ったものの新規認証取得の要望がなかったが、農業教育機関1経営体について認証の維持審査を行なった。 							
<p>国による評価</p> <p>JGAP指導員の育成に関して、3名の指導員の育成を行うなどにより、指導員は47名（令和6年度末時点で前年度末より3名増、うち団体認証指導員は1名）となり、県内の畜産GAP指導体制の強化が図られた。</p> <p>成果目標のうち、I日本版畜産GAP指導活動の推進については、1農場に指導活動を行ったことにより成果目標が達成された。また、II日本版畜産GAP等認証の取得拡大については、新規に認証を取得した農場がなく目標達成には至っていないことから、令和7年度に目標が達成（畜産GAP認証の取得経営体数：1経営体）されるよう農政局へ改善計画を提出させる。</p>							